

Contributions in Repeated Linear Public Goods Experiments: Two Different Motivations[†]

二本杉 剛* 中野 浩司** 西崎 勝彦** 山川 敬史***

2011 年 1 月

要旨

選好が線形の公共財供給では、プレイヤーにフリーライドする動機が生じるため、理論的には投資しないことが支配戦略となる。しかし、投資を 60 回繰り返しても平均投資額がゼロにならないことが実験で観察されている。投資する要因として **other-regarding preference** (他者を考慮する選好) または **social preference** (社会的選好) が考えられる。そうした選好については、これまでに **altruism** (利他主義), **kindness** (親切), **warm-glow** (温情), **reciprocity** (互惠) などの考え方が提示されている。しかし、現時点ではこれらの考え方のいずれが投資を決定づけるのか一致した見解はない。これは、上記の考え方が混合している可能性があること、もしくは、上記の考え方とは異なる考え方が存在する可能性があることを意味する。

そこで、本研究では先行研究で提示された考え方をより詳しく検証することに加えて、新たな考え方を提示するために、2 つの公共財供給実験を行った。これらの実験から、毎回相手を変えながら繰り返し行われる公共財への投資について、以下の 4 つが明らかになった。第 1 に、初期保有を全て投資する動機は 2 種類あるということである。第 2 に、この 2 種類の動機によって投資の大部分を説明できるということである。第 3 に、それらの動機とは、(1) パレート効率的な結果を目指す条件付き協力動機と、(2) 社会を支配戦略均衡による結果からパレート改善させることを目指す動機であるということである。第 4 に、**altruism**, **kindness**, **warm-glow** といった考え方で公共財への投資を説明できる余地は小さいということである。

Keywords: Linear Public Goods Experiment, Social Preference, Conditional Cooperation, Unconditional Cooperation

[†] 本研究は日本学術振興会の特別奨励費の補助を受けた。実験の実施にあたって、大阪大学経済学研究科コンピュータ室（大下裕一，爲近英恵）より支援を受けた。ここに記して感謝する。

* 日本学術振興会・早稲田大学大学院経済学研究科，E-mail: t.nihonsugi@kurenai.waseda.jp

** 大阪大学大学院経済学研究科

*** 大阪大学社会経済研究所